

第三者評価結果 公表シート

(このシートに書かれている内容は、そのまま富山県福祉情報システムにおいて公表されます。)

保育所(園)名 : 富山市立雲雀ヶ丘保育所

第三者評価機関名 : 社会福祉法人富山県社会福祉協議会

評価確定年月日 : 平成 30 年 3 月 19 日

1. 概評

◇ 特に評価の高い点

【豊かな自然とまちなか環境での保育実践】

松川べり、城址公園、神通川河川敷、護国神社、芝園小学校飼育小屋など、豊かな自然や生き物に触れることができる環境に恵まれている。四季折々の景色を見ながら、草花や昆虫に触れて楽しみ、歴史や文化を感じることができる。まちなか憩いの場(施設)へ出かけるとき、公共交通機関を利用しマナーを知り・守る、地域の人々との挨拶や交流を通し、社会性と豊かな心を育てる保育活動の実践に力を注いでいる。

【多様な世代・内容のボランティアとの交流と実習受入れ】

子育てシニアサポーター14名による教材作りや保育環境の整備補助、ほか年間を通してのお茶教室やお話の会、医学部学生によるぬいぐるみ病院遊びなど、豊富なボランティア活動が提供されている。また、地域の中学校から14歳の挑戦、高校の家庭科実習(手作り玩具寄贈)、看護専門学生による小児看護実習、歯科総合学院学生による歯科衛生教育実習などを継続して受入れている。歯科総合学院には子どもたちも出向き、歯科体験を受けるなど相互間交流が積極的に行われている。多様な世代かつ様々な内容のボランティア及び実習活動を受入れることで、子どもたちの感性や情操が豊かに育まれ、さらには保育士の学びと刺激になっている。

【充実した統合保育】

個別配慮児保護者支援として、うさぎの会・たんぼぼの会を開催している。うさぎの会は、3、4、5歳児の個別配慮児保護者同士の親睦を図り、悩みや家庭での様子を話し合ったり、先輩保護者を招いての相談、アドバイスを受けたりし、就学についての悩みなどの軽減を図る機会となっている。たんぼぼの会は、個別配慮児の保護者が、富山大学の准教授の講義を聞いたり、個別に懇談をしたりする会である。内容は、「子どもの行動の見方」「ほめほめ名人になろう」「困った子どもは、困っている子ども」「してはいけない行動をどうなくすか」などである。保護者に宿題やアンケートが出されたり、話し合いやアドバイスから保護者が自分で気づき、成長できるプログラムである。また、職員の自園研修も准教授と共に年間5回、年間計画に基づき実施している。家庭・保育所・保護者・保育士が同じ姿勢で子どもに向き合い、安心して生活できるよう取り組んでいる。当保育所には、地域住民からは、「障がい児保育を実施していると聞いたけど、どの子も同じで分からないね！」という感想がよせられてる。

◇ 改善を求められる点

【中・長期計画に基づいた事業計画の作成】

富山市の「子ども・子育て支援事業計画(5年計画)」に基づきながら、「雲雀ヶ丘保育所中長期経営計画書」が所長を中心に作成されている。そこには、「保護者支援」、「地域の保育所」といったように関係する人や地域も項目に組み込まれている。このような計画を作成するに当たっては、目標や展望の実現に向け、保護者や地域のニーズを把握した上で策定し、それらを反映した単年度事業計画を具体的に示されたい。また、関係機関及び地域、保護者、職員に周知し、関係者全ての人の参画が図られ、実践・評価・検討を経て翌年度へと計画が繋がっていく組織体制の構築に期待したい。

【さらなる質の向上に向けた仕組みづくり】

保育サービスの質の向上や人権擁護の意識を高めるため、「人権擁護のためのセルフチェックリスト(年2回)」、「保育サービス自己評価・事故防止チェックリスト」を職員に、保護者に向けて「保育所サービスアンケート」を実施している。結果は伝えているものの、分析や改善策・目標などを職員で検討するに至っていない。いずれも保育の質(満足度)の向上を図る目的であり、結果をまとめて分析し、そこから導き出された課題を明確にし、取組み目標や改善策などを検討し周知することで、更なる保育サービスの向上を図る仕組みづくりに期待したい。

【地域・保護者の意向を組み入れた保育計画】

各計画が保護者や地域との連携で作成されているかという視点に立ち、確実な意向調査や富山市の行動計画から当保育所の地域性を踏まえ作成することで、特徴ある分かりやすい計画になると考えられる。保護者の意向や地域の意見等の集計をとり、計画に取り入れ作成し、それを保護者や地域に発信することで、保護者、地域が保育所と一体となり、子どもたちの幸せのために進んでいこうというメッセージが明らかになるといえる。子どもたち、保護者、地域に合った独自の保育計画を作成されることを期待したい。

2. 大項目毎の特徴

1 運営管理

- ・週初めの朝ミーティングで、保育目標を職員は声に出して確認し合い、常に意識を持ち、保育内容に反映させるよう努めている。
- ・子どもの人権擁護に積極的に取り組んでおり、「人権擁護のためのセルフチェックリスト」に基づいて年2回、職員が権利擁護についての自己評価を実施している。
- ・人材育成を目的に新人研修及び主査研修では、研修後1週間と1ヶ月後に所長が面談を行い、学びの振り返りや相談・指導を実施しサポートしている。
- ・玄関ホール壁面に感染症や医療情報を提供するコーナーが設けられており、非常勤の看護師が担当して見やすく・わかりやすい形で情報を発信している。
- ・ひやりとした場面や事故内容を『ヒヤリハットマップ』として場所・内容を施設見取り図に表示したマップを作り、子ども・保護者・職員などへの見える化を図り、対応や改善点を職員で話し合い、職員への周知を図っている。また、詳細に報告書に記入し、全職員に回覧することで、再発防止や重大な事故に繋がらないよう配慮している。
- ・自園研修として、富山大学人間発達科学部准教授を講師に招き、個別配慮児及び保護者、他園児の支援方法について年間5回研修の機会を設け、担当保育士及び参加可能な保育士が積極的に知識と技術の習得に努めている。

2 地域の住民や関係機関との連携

- ・富山市街の住宅や店舗に囲まれた立地にあり、駐車スペースが十分に確保できていないが、近隣住民の理解と職員のサポートにより車両での送迎が可能となっている。地域の清掃日に合わせ、保育所周辺の溝掃除など、保護者の協力のもと地域住民と共に実施している。
- ・地域へ出かけ、社会資源を大いに活用することを特徴とし、出会った住民や施設関係者などとの交流、多世代・多様種のボランティア及び実習を積極的・継続的に受入れることで、子どもの社会参加や豊かな育ちに繋がるよう取り組んでいる。

3 子どもの発達援助

- ・富山市街に位置し、城址公園・松川・神通川河川敷・護国神社・芝園小学校の飼育小屋での散歩や自然、動物など多様なふれあいや体験ができる。まちなかのレガートスクエアや市民プラザなど文化的体験も豊富である。山王祭の見学・護国神社の鬼行列参加、地域の行事にも積極的に参加している。多様な体験、経験は、子どもたちの成長に欠かせないものであり、地域に愛される保育所である。
 - ・「おとり紙」と呼ばれるチラシなどの資源を小さく切って、各テーブル中央に置かれ再利用している。給食時、食べこぼしや床への落下物に対して使用している。保育活動の中で保育士と共にエコ活動に取り組み、自然とそういった意識が身につくよう実践されている。
 - ・女性ボランティア・子育てシニアサポーター・富山大学医学部ボランティア・お茶教室ボランティア・お話しの会ボランティア・歯科総合学院実習・富山赤十字看護専門学校実習・14歳の挑戦・富山中部高校保育見学実習など、ボランティアや実習生の受け入れも多く、子どもたちはいろいろな体験をすることができ、人的環境にも恵まれている。
- 特に富山大学医学部ボランティアの「ぬいぐるみ病院」は、ぬいぐるみを使った病院を開催し、白衣を着た学生が医者になり、問診・診察をしてもらい子どもたちは、緊張しながら病気に対する知識や関心を持つ機会になっている。

4 子育て支援

・一時保育は、1日に2～3名を受けている。特定の保育室は設けず年齢を考慮し、それぞれのクラスで保育している。担当保育士は、1名配属されており、同年齢とふれあい保育しているが、保育所の面積の関係上部屋が足りない状態である。遊びやコーナー遊びのための部屋を活用して、静かな空間の確保を考慮することも必要である。

3. 各小項目にかかる第三者評価結果(ABCD評価結果) (別紙)

4. 第三者評価結果に対する事業者のコメント

第三者評価を受けることで、雲雀ヶ丘保育所独自の特色を再認識することができました。また、職員の専門性の向上を図るため、いろいろなチェックリストを通して見えてきたことを職員で話し合うことが、一人一人の保育力アップに結びつき、保育所の資質向上につながってきたようにも思います。

今後は、地域の中の保育所を意識し、地域や保護者のニーズや思いを汲み取り、保育所独自の中長期計画を作成したり、アンケートの分析結果を基に職員間で話し合い、保育の質の向上に努めたりし、関係者すべてが参画し、より安全で安心な保育所作りを目指していきたいと考えています。

また、今後も様々な研修を受け職員が専門性を高めていることや、保育所の特色などを地域に対してアピールし、保育所や子ども達、保育士への理解を深めてもらう努力を重ねていきたいと思っています。

別紙 各小項目にかかる第三者評価結果（A B C D評価結果）

大項目		
中項目	小項目	評価

1 運営管理		
(1)基本方針	①理念及び基本方針が明文化され、職員、保護者、関係者に周知するための取り組みが行われている。	A
(2)中・長期計画	①中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	B
	②中・長期計画が適切に策定されている。	B
(3)組織運営	①保育の質の向上や改善のための取り組みを、定期的な自己評価など、職員参加により行っている。	A
	②職員の研修ニーズを把握し、職員に適切な研修機会を確保している。	B
(4)守秘義務の遵守	①守秘義務の遵守を周知している。	A
(5)情報提供・保護者の意見の反映	①情報提供に当たって、わかりやすく伝える工夫や配慮を行っている。	A
	②保育の実施に当たり、保護者から意見を聞くための取り組みを行い、その意向に配慮している。	B
	③保育サービスの継続性に配慮した対応が行われている。	A
(6)安全・衛生管理	①事故や災害に適切に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されているとともに、事故防止のための具体的な取り組みを行っている。	A
	②調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている。	A
(7)人事管理	①人事管理の体制が整備されている。	A
(8)経営管理	①予算管理の体制が整備されている。	A
(9)管理者の責任とリーダーシップ	①管理者の責任が明確にされているとともに、リーダーシップが発揮されている。	A

2 地域の住民や関係機関との連携		
(1)地域の住民や関係機関・団体との連携	①医療機関・児童相談所などとの相談・連携体制を整えるとともに、その他地域の関係機関に関する情報を収集している。	A
	②小学校、地域団体、地域住民などとの連携、交流が図られている。	B
(2)実習・ボランティア・保育体験	①実習生、ボランティア、保育体験などの受け入れ体制が整っている。	A

3 子どもの発達援助		
(1) 発達援助の基本	①保育計画が、保育の基本方針に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して作成されている。	B
	②指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき、指導計画を見直している。	A
	③一人一人の子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。	A
	④一人一人の子どもの発達状況、保育目標、生活状況についての記録があり、それぞれの子どもに関係する全職員に周知されている。	A
	⑤一人一人の子どもの発達状況、保育目標、保育の実際について話し合うためのケース会議を定期的かつ必要に応じて開催している。	A
(2) 健康管理・食事	①登園時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり子ども一人一人の健康状態に応じて実施している。	A
	②健康診断(歯科健診含む)の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	A
	③感染症への対応については、マニュアルなどがあり、発生の状況を必要に応じて保護者に連絡している。	A
	④専門医から指示があった場合、アレルギー疾患をもつ子どもの状況に応じて適切な対応を行っている。	A
	⑤日々の献立を保護者に示すとともに、必要に応じて、子どもの喫食状況を保護者に知らせている。	A
	⑥食事を楽しむことができる工夫を保育士がしている。	A
	⑦食事を楽しむことができる工夫を栄養士、調理員などがしている。	A
(3) 保育環境	①子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	A
	②生活の場に相応しい環境とする取り組みを行っている。	A
(4) 保育内容	①子ども一人一人への理解を深め、受容しようと努めている。	A
	②基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人一人の子どもの状況に応じて対応している。	A
	③子どもが自発的に活動できる環境が整備されている。	A
	④身近な自然や社会と関わるような取り組みがされている。	A
	⑤さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている。	A
	⑥遊びや生活を通じて、人間関係が育つよう配慮している。	A
	⑦子どもの人権に十分配慮するとともに、互いに尊重する心を育てよう配慮している。	A
	⑧性差への先入観による固定的な観念や役割分担意識を植え付けないよう配慮している。	A
	⑨乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	B
	⑩長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	A
	⑪障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる。	A

4 子育て支援		
(1) 入所児童の保護者の育児支援	①子どもの発達や育児などについて、懇談会や保育参加など保護者と共通理解を得るための機会を設けるとともに、一人一人の保護者と日常的な情報交換や個別面談などを行っている。	A
	②虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、児童相談所などの関係機関に照会・通告を行う体制が整っている。	A
(2) 多様な子育てニーズへの対応	①多様な子育てニーズを把握するための取り組みを行い、それを活動や事業に反映している。	A
(3) 地域の子育て支援	①育児相談など地域の子育て家庭を対象とする子育て支援のための取り組みを行っている。	A
	②一時保育は、一人一人の子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている。	B